

町民に開かれた議会を 目指し、これから約2年間に 議会として何をすべきか

青田委員長

長谷川議長

若い方にも議会を知つてもらつには、足を運んでもらつたり、こちらから出向くということより、インターネットを利用した中継等の導入が必要ではないか。そうすれば時間も関係なく見ていただける。常任委員会も中継して、情報をどんどん発信し、いつでもどこのでも見られるようにすることが大切。意見交換会といつても仕事を持つ若い方の参加に限界があるので、やはり中継等が必須だと思つ。

西内委員長

西内委員長が言うように、インターネットによる情報発信をすれば、若い人にも知つていただけます。が、私はもうひと工夫欲しいなと思っています。議会で研修に行くことも必要ですが、議員2人分の旅費があれば講師を呼ぶことができる。講師を呼び、町民を巻き込んだ講演やフォーラムを開催するなどもつの方法と感じる。議会に要望するだけではなく、自助、共助、公助の役割をお互いに認識できるような取り組みが必要ではないかと思う。その中で住民も意見を発信してくれるような場を作れば私は良いと思う。

杉本副議長

先日、定数と報酬に関する研修に参加してきた。その中でも、議員の定数は最低でも行政区画数分は必要だという話もあった。定数は、選挙直前になると町民の顔色を考えてしまい、どうしても削減という話に偏りがちにならう。次の1年で解決すべきこと感じている。若い人の立候補という話もあつたが、これからは、仕事はいくつでも議会だけが若い人がいないのではないか、全ての職場で若い人がいなくなっている。議会だけ若い人にというのは現実的に難しい。できるだけ、いろいろな年代に受け入れられるような議会になるようにしなければならない。

それぞれの思いを持つ議員で構成される「議会」。町を良くするために議会を変える、その思いは共通の思いであることを実感しました。残り2年、これまでの活動を振り返り、確実に一歩ずつ前進できる年にしたいと思います。

私は、次の2年間の中で議論していきたいのは、議員の地位向上。もう少し報酬をアップして、生活できるような背景を次の人たちに渡してやりたいというのが私の願い。それには、多くの住民の方と接しながら、議員とはこういうことをしている、議会は三元代表制の中で必要なんだよということを、多くの人に広めていきたい。意欲のある方が議員を目指せる裏付けとして、きちんとした環境を作つてあげたいと思う。そういうことを議員としてのライフルとしてやっていきたい。

2年間の中でもまだ課題はある。しかし、今回の討論でみんなのいろんな思いを知ることができた。やはりその思いを後の2年間の中で表現し、結果はどうあれ行動して欲しいと感じる。定数と報酬に関しては、今年、この件を議論する特別委員会を設置する。まずは議員間でしっかりと議論し、その内容をどう町民に話をしていくかを次の1年間で行つていただきたい。議会報告会も行政区だけではなく、町内の各種団体と行うなど、いろいろな方向性が考えられる。大切なのは、みんなで意見を出し合は、しっかりと議論して前に進んで行くことだと思つ。

このほかにも、まちづくりワークショップや広報誌のリコール、フェイスブックの開設など新しい取組みへの評価と併せて町民との情報共有や、要望を聞くだけではなく共に考える機会が足りないという課題も出されました。

小玉 議員

安中 経済文教常任委員長

青田 広報広聴常任委員長

西内 総務民生常任委員長

鈴井 議員

進藤 議員

杉本 議員

白石 議員

